

第五百廿三
ガラス越しに射し入る朝日を
浴びてカマの上でスリーキャッスルの白い煙の輪を吹く、天井に淡く消ゆる煙となかば夢心地眺めて居れば梅の花でも咲いて鶯の聲を隊子越しに聞くやうな長閑な氣分である。

その朝私は軽い遊山気分でぶ

娘夫婦と一緒に花壇の中を行き交つて居る。此は聯邦各地から送るもので

芝生の丘に旅行者の木が大き

トに舗装された道を真すぐにユ

カーブトの茂る丘を望むで歩けは茲がアタンタンの研究所で

ビネロスから二キロ、郊外に

は珍らしい位に立派なアスハ

トに舗装された道を真すぐにユ

カーブトの茂る丘を望むで歩

けは茲がアタンタンの研究所で

内無毒種一五、三七七足
差引有毒種一五、三七七足
搬入蛇の總數一八、五五四足
此は聯邦各地から送るもので

三百人位の數字に上つて居

人は三百人位の數字に上つて居

て居るかを調べて見たが送り出

人は三百人位の數字に上つて居

